

『主の晩餐と聖餐式』

’21/09/19

聖書箇所: マルコの福音書 14 章 22-26 節 (新約 p.97)

皆さんは、「最後の晩餐」のような“お別れ”を経験したことがありますか？…例えば、愛する家族がどこか遠くへ行ってしまうとか、あるいは、親しい友人が遠くの海外へ引っ越ししてしまう、といったようなことです。…先週、私たちは、あのイエス様と弟子たちが木曜日の夜、…つまり、あの十字架を目前に控えた時、一緒に、過越の食事をされたということを学びました。

命題: イエス様が「主の晩餐」を通して、弟子たちに教えてくださったこととは？

もう間もなく、イエス様と弟子たちは引き裂かれます。弟子たちは皆、散り散りになり…、もう、ゆつくりと皆で話したり、一緒に落ち着いた時間を過ごしたりすることは難しくなります。そこで、今日のみことばが教えてくれていることは、そんな最後の時に、イエス様が、どういったようなことを弟子たちに話されたのか？どんなことを弟子たちに教えようとしたのか？ということでもあります。

イエス様を信じておられるクリスチャンの皆さん…、もしも、皆さんが本当にイエス様の贖いによって救われているのなら、私も、あなたも…、皆、共にイエス様の“弟子”であります。ですから、私たちは、この日この時、イエス様が弟子たちに教えてくださったみことばに耳を傾ける必要がありますし…、皆さんも、関心があるはずですよ。…そうでしょ！

私が願いますのは、今日、このメッセージを聞いてくださった皆さんが、あの十字架の直前、イエス様が弟子たちに教えてくださったことを理解することができ…、そうして、私たちがまた、現代に生きる“キリストの弟子”として、イエス様のみこころに沿って、神様から与えられた人生を歩んでいってくださることです。どうぞ、聖書をお持ちでしたら、今日のみことばであるマルコ 14:22-26 をお開きください。

I・いつも、主の十字架を覚えよ！(マルコ 14:22-24)

どうぞ、まずは、今日のみことばの内、22-24 節の部分に注目していきましょう…。ここで、イエス様は、いつも、わたしの“十字架”を覚えよ！ということをお話してくださっています。…でも、「イエス様の十字架を覚える」というのは、具体的にどういうことなのでしょう？そういうことを、今から一緒に学んでいきましょう。今日のみことばの 22-24 節には、このように記されています。

22 それから、みなが食事をしているとき、イエスはパンを取り、祝福して後、これを裂き、彼らに与えて言われた。「取りなさい。これはわたしのからだです。」

23 また、杯を取り、感謝をささげて後、彼らに与えられた。彼らはみなその杯から飲んだ。

24 イエスは彼らに言われた。「これはわたしの契約の血です。多くの人のために流されるものです。」

●その象徴＝イエス様の犠牲と、イエス様との契約！

多分、今読んだみことばは、クリスチャンの方なら、かなり、馴染みのあるフレーズではないでしょうか？…と言いますのも、多くのクリスチャンたちは、こういったみことばを聖餐式の時に聞いているからです。…しかし、何度も聞いているからと言って、私たちが、そういったみことばを正しく理解できているかどうか？というのは、イコールではありません。例え、100 回 200 回と聞いて“は”いても、実は、その正しい内容を、よく理解できていなかった、というようなことが、私たちに有り得ます。…ですから、どうか、皆さんには、しっかりと、今日のみことばを観察していただきたくお願いいたします。

さて、ここ 22 節をご覧くださいと、『それから、みなが食事をしているとき…』とあります。当然のことですが、今日のみことばは、前回私たちが学んだみことばと繋がっています。…つまり、ここで言われてい

る『食事』と言いますのは、先週私たちが学んだ、あの「過越の食事」のこと…、つまり、一般には「最後の晩餐」として知られている、“あの状況”であります。実は、マルコ伝には、詳しく記されてありませんが、先週学んだように、イエス様がイスカリオテの裏切りを予告されたすぐ後、イスカリオテは、イエス様のことを銀貨 30 枚で売るため、その食事の場を出て行ってしまいました。

ですから、今日のみことばが教えてくれている時、もう、イスカリオテは、その場にはおりませんでした…。そこで、イエス様は、先程のみことばを語ってくださったのですが、ここのシーンを、一般的には、「主の晩餐」とも呼んだりするわけです。

つまり、この時にイエス様が裂かれて、弟子たちに配られたパンというのは、過越の食事の時に食べられていた「種を入れていないパン」…、つまり、ほとんど膨らんでいない、クッキーのようなパンであったことは間違いありません。そのパンを配りながら、イエス様は、こうおっしゃられました、『取りなさい。これはわたしのからだです。』って…。

実は、カトリックの教義では、聖餐式の時に配るパンはイエス様のからだそのもの…、また、杯はイエス様の血そのものであるという、理解になっているのだそうです。だから、カトリックでは、聖餐式の時に配るパンや杯は、細心の注意をもって扱うのだそうです。…と言いますのは、それらは、イエス様のお体や尊い血であるわけですから、万が一の粗相が有ったら、とんでもないことだからです。…しかし、私たちプロテスタントでは、そういったような理解はしていません。…と言いますのも、私たちがこの後で学んでいこうとしている、I コリント 11 章のみことばには、こう教えられてあるからです。『24 これはあなたがたのための、わたしのからだです。わたしを覚えて、これを行いなさい。』25 夕食の後、杯をも同じようにして言われました。「この杯は、わたしの血による新しい契約です。これを飲むたびに、わたしを覚えて、これを行いなさい。』(I コリント 11:24-25)

⇒皆さん、分かってくださいますか？…ここで、イエス様は、パンと杯を配りながら、「わたしを覚えて、これを行いなさい！」ということをお命じられたわけで、明らかに、パンやぶどう酒をいったものが、イエス様のことを思い起こすための“単なるきっかけ”…つまり、象徴であるということが分かります。…だから、私たちは、聖餐式の時に配るパンやジュースに対して、特別気を使いません。大切なのは、パンや杯が示している“本体”であって、象徴の方ではないからです。…そうでしょ？

じゃあ、具体的に、イエス様が配られたパンや杯は、何を指し示しているのでしょうか？⇒今日のみことばで、イエス様は、1つのパン(原語では単数)を取り、それを裂いて、弟子たちに配られました。また、杯に関する説明は、もっと明確です。この時、イエス様は杯を配るに当たって、ただ単に、「これは、わたしの血です…」とは言わずに、『これはわたしの契約の血です。多くの人のために流されるものです。』と教えてくださいました。

こういったことから、ここでイエス様がおっしゃったことは、ここでイエス様が配られたパンと杯は、単なる、イエス様のお体と血を指しているのではなくて、あの十字架上で裂かれたイエス様のお体と…、あの十字架上で流されたイエス様の血を指しているということが分かります。今日のみことばもそうですが、この後、私たちは何週かに渡って、イエス様が経験された裁判やむち打ち…、そうして、十字架や復活といったことを学んでいきます。…私や皆さんを救うために、一体、イエス様はどれほどの“犠牲”を払ってくださったのでしょうか？…私たちは、この時、イエス様が配ってくださったパンや杯を覚える時、イエス様が私たちに救うために、どれほどの痛みや苦しみを体験してくださったのか？ということを感じる必要があるのです。

そして、もう一つ…。どうぞ、今日のみことばの 24 節に注目してください。…ここで、イエス様は、杯を配られた後、『これはわたしの“契約”の血です。』とおっしゃいました。…皆さん、私たちは、イエス様と契約関係にあるのです。

そこで、どうぞ、もし聖書をお持ちでしたら、旧約聖書の出エジプト記をお開きください。…そこでは、「天の神様とイスラエルの民たちが契約を結んだ！」ということが記されています。出エジプト記 19:3-8、
『3 モーセは神のみもとに上って行った。【主】は山から彼を呼んで仰せられた。「あなたは、このように、ヤコブの家に言い、イスラエルの人々に告げよ。4 あなたがたは、わたしがエジプトにしたこと、また、あなたがたを鷲の翼に載せ、わたしのもとに連れて来たことを見た。5 今、もしあなたがたが、まことにわたしの声に聞き従い、わたしの契約を守るなら、あなたがたはすべての国々の民の中にあって、わたしの宝となる。全世界はわたしのものであるから。6 あなたがたはわたしにとって祭司の王国、聖なる国民となる。これが、イスラエル人にあなたの語るべきことばである。」7 モーセは行って、民の長老たちを呼び寄せ、【主】が命じられたこれらのことばをみな、彼らの前に述べた。8 すると民はみな口をそろえて答えた。『私たちは【主】が仰せられたことを、みな行います。』それでモーセは民のことばを【主】に持って帰った。』
⇒皆さん、聞いてくださいましたか？…ここで、天の神様は、イスラエルの民たちに対して、「もし、あなたがたが、わたしの声に聞き従い、“わたしの契約”を守るなら…」という話をしておられるでしょ？…つまり、ここで、神様は、イスラエルに対して、「あなた方は、わたしの声に聞き従うか？わたしと契約を結ぶか？」という質問をしておられるのです。…そうして、それに対して、イスラエルは、どう反応したか？8 節、
『すると民はみな口をそろえて答えた。「私たちは【主】が仰せられたことを、みな行います。」それでモーセは民のことばを【主】に持って帰った。』とあります。つまり、イスラエルの民たちは皆、神様のお声に聞き従い、神様と契約を結びます！ということをお誓ったのです。これが、所謂、「シナイ契約」あるいは、「モーセの契約」です。

だから、出エジプト記には、このすぐ後の 20 章で、あの有名な十戒について記されてあるのです。…と言うのも、イスラエルが神様と契約を結んだので、神様が、その契約の内容について、詳しく説明をしてくださっているわけですから。

でも、皆さんは、よくご存知です。イスラエルが神様と結んだ契約は、残念ながら、失敗に終わりました。…というのは、イスラエルが、神様の御声に聞き従わなかったからです。…だって、ここ出エジプト記 19:8 で、イスラエルは何と言いました？『すると民はみな口をそろえて答えた。『私たちは【主】が仰せられたことを、“みな”行います。』…』とありますでしょ？…でも、実際は、どうでした？本当に、イスラエルの民たちは、神様の御声に聞き従って、そのみこころを“みな”守り行ないました？神様から合格点を戴きました？…いいえ！残念ながら、イスラエルは、神様の御声に聞き従うことはできませんでした。つまり、行ないによっては救われ得ないのです！

良いですか？皆さん。私たち人間は誰も行ないによっては救われません！…だから、神様は、行ないとは別の救いの方法を備えてくださったのです…。それが、信仰による救いです。そのために、イエス様は、神としてのあり方を捨てて、人間となって、私たちの罪すべてを負って、私や皆さんの身代わりに、あの十字架上で裁かれて、救いの道を備えて…、約束通り、3日目によみがえってくださったのです。

●その理由＝多くの人たちの 罪を赦す ため！

一体どうして、イエス様は、あの十字架にかかってくださったのでしょうか？…その“理由”について、見てみましょう。どうぞ、できましたら、もう1度、今日のみことばに戻ってみてください。その 24 節で、イエス様は、こう教えてくださいました。『…これはわたしの契約の血です。多くの人のために流されるものです。』って…。このように、イエス様の血は、例えば、イエス様ご自身が何かとんでもないミスをしたとか、あるいは、何か罪を犯したからではありません。イエス様の血は、多くの人のため…、つまり、私やあなたの“罪を赦す”ために流されたものであったのです！

例えばね、皆さん…。皆さんは、誰か他人のために、自分の何かを犠牲にすることって、できますか？…ひょっとしたら、1万円2万円だって惜しいかも知れませんが、しかし、イエス様は、何と、私やあなたのことを、罪とその裁きから救うために、ご自分のいのちさえ犠牲にしてくださったのです！

●その動機＝イエス様の、私たちに対する 愛 のゆえ！

どうぞ、今度は、イエス様が、そのような犠牲を払ってくださった理由…、その“動機”について見てみましょう。どうぞ、もう1度、この 24 節のみことばに注目してみてください。何となく、この新改訳聖書でも伝わってくると思うのですが、実は、ここ 24 節後半の文章を、原語のギリシヤ語で観察してみると、ここでイエス様は、その流される血を“主語”にして話しておられることが分かります。…日本語でも、何となく分かりますでしょ？…実は、こういったことから、イエス様の流される血というのが、イエス様の意志に反した形で流れ出たものではなくて…、イエス様の意志によって流されたものであるということが分かるのです。

正直、このみことばだけで、そこまで、はっきりと言い切ってしまう良いかどうか難しいところですが、しかし、聖書のみことばは、全体的に、それと同じことを教えてくれています。…例えば、1番はっきりしていると私が思うのは、ヨハネ伝 10 章のみことばです。そこで、イエス様はこう教えてくださいました。ヨハネ 10:14-18、
『14 わたしは良い牧者です。わたしはわたしのものを知っています。また、わたしのものは、わたしを知っています。15 それは、父がわたしを知っておられ、わたしが父を知っているのと同様です。また、わたしは羊のためにわたしのいのちを捨てます。16 わたしにはまた、この囲いに属さないほかの羊があります。わたしはそれをも導かなければなりません。彼らはわたしの声に聞き従い、一つの群れ、ひとりの牧者となるのです。17 わたしが自分のいのちを再び得るために自分のいのちを捨てるからこそ、父はわたしを愛してください。18 だれも、わたしからいのちを取った者はいません。わたしが自分からいのちを捨てるのです。わたしには、それを捨てる権威があり、それをもう一度得る権威があります。わたしはこの命令をわたしの父から受けたのです。』

⇒ここで、イエス様ははっきりと教えてくださいました。イエス様は、ローマ兵や…、例えば、あの祭司長やパリサイ人たちによって、無理矢理、いのちを奪われたものではありません。…と同様に、イエス様は、父なる神様に言われて、イヤイヤ、十字架にかかってくださったのでもありません。イエス様は、ご自分から、あの十字架へ向かっていかれ…、ご自分の意志で、そのいのちを捨てていただきました。…なぜなら、イエス様もまた、父なる神様と同様、真の神様であられるからです！

ヨハネ 3:16 のみことばが、『神は、実に、そのひとり子をお与えになったほどに、世を愛された。それは御子を信じる者が、ひとりとして滅びることなく、永遠のいのちを持つためである。』と教えてくれているように、天の神様が、私やあなたのことを、最高の愛でもって愛してくださったから、私たちに救いの道が備えられたのです！…毎度毎度言いますように、神様が、そのように大きな愛を御持ちで…、恵みに満ち溢れた御方であつたからです！…多くの教会が教えるように「私や皆さんに、それほどの価値があつたから…」ではありません！…だから、私たちは、「こんな、罪に汚れた…、どうしようもない私を救うために、イエス様が、自ら進んで、あの十字架に磔になってくださったことを、決して…、一瞬たりとも忘れてはならないのです。

Ⅱ・自分自身を 吟味 せよ！（I コリント 11:23-31）

どうぞ、今度は、今日のみことばと関連して、I コリント書 11 章のみことばを見てみましょう。…そこで、イエス様は、私たちが、自分自身のことを“吟味”すべきことを教えてくださいました。I コリント 11:23-31 には、このように記されています。

- 23 私は主から受けたことを、あなたがたに伝えたのです。すなわち、主イエスは、渡される夜、パンを取り、
- 24 感謝をささげて後、それを裂き、こう言われました。「これはあなたがたのための、わたしのからだです。わたしを覚えて、これを行いなさい。」
- 25 夕食の後、杯をも同じようにして言われました。「この杯は、わたしの血による新しい契約です。これを飲むたびに、わたしを覚えて、これを行いなさい。」
- 26 ですから、あなたがたは、このパンを食べ、この杯を飲むたびに、主が来られるまで、主の死を告げ知らせるのです。
- 27 したがって、もし、ふさわしくないままでパンを食べ、主の杯を飲む者があれば、主のからだに血に対して罪を犯すことになります。
- 28 ですから、ひとりひとりが自分を吟味して、そのうえでパンを食べ、杯を飲みなさい。
- 29 みからだをわきまえないで、飲み食いするならば、その飲み食いが自分をさばくことになります。
- 30 そのために、あなたがたの中に、弱い者や病人が多くなり、死んだ者が大ぜいいます。
- 31 しかし、もし私たちが自分をさばくなら、さばかれることはありません。

●聖餐式の 目的 !

さて、このみことばから、今日のところは、聖餐式の“目的”について考えてみましょう。このみことばは、大きく分けて、2つの命令を教えてください。1つは、25 節の『わたしを覚えて、これを行いなさい!』というものです。もう1つは、28 節の『一人ひとりが自分を吟味しなさい! その上でパンを食べなさい! 杯を飲みなさい!』というものです。

先程見たように、イエス様の十字架は、私たちが救うためのものでありました。…と同時に、聖書のみことばが教えてくれているのは、いつも、そのイエス様の十字架を覚えておきなさい! というものでした。…しかし、皆さんは、そんなことが出来ます?…と言いますのは、私たちは、すぐに、最初の動機や感謝を忘れて、いつの間にか、惰性や義務感で動いてしまうような生き物じゃないですか?…そうじゃありません?…例えば、この中で、「いいえ! 私は、この1ヵ月、ずっと神様に、あの十字架を感謝し続けて…一瞬たりとも、神様に喜ばれないような感情や考えを持ったことはありません!」なんていう人は居ないはずです。…私たち人間は、そのような…、弱く、罪深い人間なのです…。

でも! だからです!…だから、天の神様は、私たちに、聖餐式というような儀式を守るよう命じられたのではないのでしょうか?…聖餐式の時、私たちは、今一度、パンを食べる時、その象徴である、あの十字架上で裂かれたイエス様のお体を覚えます。また、杯をいただく時は、私たちのために、イエス様が十字架上で流してくださった血を覚えるわけです。

そうして、このみことばが命じているように、私たちは自分自身の信仰を…、また、その歩みを吟味するわけです。果たして、私の歩みが、神様に喜ばれるものであるかどうか?また、私たちが、あのイエス様の十字架での犠牲を無駄にするようなことになってしまっていないかどうか?というようなことを…。

…と言いますのは、誰でも、私たちの心の奥底まで見抜けるような者は、真の神様をおいて、他に居ないからです。…そうでしょ?…悲しいことに、私たちは偽ることが出来ます。イエス様が非難された、あのパリサイ人や律法学者たちのように、さも、熱心な信仰者の仮面を被ることができてしまうのです。…でも、だからこそ、私たちは、誰か他の人じゃない! 自分自身の心を吟味して、それが、神様の前に正しいかどうか? 私たちの内に住んでくださっている聖霊なる神様を悲しませていないかどうか?を吟味しないとイケないのです。…と言いますのは、それを出来るのは、あなた以外に居ないからです。

●聖餐式の 注意点 !

さて、今度は、その聖餐式に預かる時の“注意点”について見ていきましょう。…どうぞ、ここ I コリント書の 27 節をご覧ください。そこには、何とあります?⇒『したがって、もし、ふさわしくないままでパンを食べ、主の杯を飲む者があれば、主のからだに血に対して罪を犯すことになります。』とありますでしょ?

良いですか? 皆さん。…新約聖書が教えてくれている儀式は、2つだけです。1つは、この聖餐式と、もう1つはバプテスマ…、つまり、洗礼式です。バプテスマは、基本的に、一生の内で、1回きりです。しかし、聖餐式は、一生の内に、何度も経験します。…しかし、このみことばは、私たちが、もしも、聖餐式を軽んじて、いい加減な思いで、そのパンを食べ、また、その杯を飲むならば、それは、イエス様の十字架を軽んじることになり…、その人は、イエス様の前に罪を犯すことになります。

ですから、ここ 27 節のみことばを、リビングバイブルでは分かりやすく、こう翻訳してくれています、「もしキリスト様の体を気にもかけず、その意味を考えもせず、ふさわしくないままでパンを食べ、杯を飲むなら、神様のさばきを招くはめになります。キリスト様の死をもてあそんだわけですから。」って…。ここでは、大変、恐ろしいことが警告されてあることに、皆さん気付いてくださいます?

しかも、恐ろしいのは、ここ 27 節だけではありません。29 節以降では、こう続きます、『29 みからだをわきまえないで、飲み食いするならば、その飲み食いが自分をさばくことになります。 30 そのために、あなたがたの中に、弱い者や病人が多くなり、死んだ者が大ぜいいます。 31 しかし、もし私たちが自分をさばくなら、さばかれることはありません。』って…。良いですか? 皆さん。聖餐式を軽んじること、イエス様の十字架を軽んじることであり…、ひいては、神であるイエス様を軽んじることなのです!…そのため、もしも、誰かが主の聖餐式を軽んじるなら、その人は、神様の裁きによって、何らかの病氣や死ぬことさえ起こり得る!…ということ、このみことばは教えてくれているのです。…それと、もちろん、ここで言われている「さばく、さばかれる…」という言葉は、私たちが1度受けた救いを失って、永遠の裁きに下ってしまうということではありません。

私が来た時、この教会では、「信仰さえ持っていれば、誰でも、聖餐式に預かって良い!」…ということと、それぞれ、小さな子どもたちも、聖餐式に預かっておりました。しかし…、私たちは、その小さな子どもたちの信仰告白に、どの程度、信頼を置くべきでしょうか?…もちろん、その子どもたちの告白を信じるな、ということでは、決して、ありません。…でも、皆さんもご存知じゃありません?…例えば、小学生の子どもたちが、「ボク、イエス様を信じてるねん!」と言ってくれていた子どもたちが大きくなって、いつの間にか、その信仰を否定してしまっていることありません?…果たして、その子どもたちは、本当に救われていたのでしょうか?

私も、実際に知っているのは、ある教会で、5歳でバプテスマに預かったケースがありました。果たして、それは、教会として、正しい選択なのでしょう?…これは、あくまでも、参考ですけれども、例えば、ユダヤ教では、子どもたちが男の子では 13 歳、女の子なら 12-13 歳で、成人を迎えることになっています。私個人としては、大体、それ位の年齢が、ある程度の責任と言いか、その子の決心や選択を尊重してあげる最低限の年齢だと考えています。ですから、5歳とか6歳というのは、あまりにも、その子に背負わせる選択や責任が重過ぎるように、私には思えます…。

以上、ここまで見てきて、イエス様は、こういった聖餐式を守りなさい! イエス様が十字架上で犠牲にしてください、お体や血を覚えて聖餐式を行いなさい! ということを確認に教えてください。…しかし、その具体的な頻度については教えられてありません。…確かに、使徒の働き(2:46)を見ると、初代教会の時代には、毎日、聖餐式を守っていたような記事も書かれています。

確かに、教会によっては、毎週、聖餐式を守っている教会もあれば、月に1度、あるいは、数ヶ月に1度の教会もあります。多分、私の知っている限りでは、月に1度の頻度が一番多いように思いますが、でも、問題は回数ではありません！…私たちが、主のみこころに沿った聖餐式を持っているかどうかです！…そのためには、「教会が…」と言うより、「牧師が…」と言うよりも、クリスチャンである皆様のご理解と協力が何より必要です！…そうでしょ！…どうか、皆さん、お一人おひとりが、イエス様の十字架を覚え、主に喜ばれる聖餐式…、主に喜ばれる選択というものを実践していただきたいと思います。

Ⅲ・主との再会(再臨)を待ち望め！(マルコ 14:25-26)

さて、最後は、駆け足で、3つ目のポイントを見ていきましょう。どうぞ、もう1度、今日のみことばであるマルコ伝 14 章に戻っていただきまして、その 25-26 節をご覧ください。そこでイエス様は、**主との再会…、つまり、再臨を待ち望め！**ということをおっしゃっています。25-26 節には、こうあります。

25 まことに、あなたがたに告げます。神の国で新しく飲むその日までは、わたしはもはや、ぶどうの実で造った物を飲むことはありません。」

26 そして、賛美の歌を歌ってから、みなでオリブ山へ出かけて行った。

●クリスチャンの復活！

申し訳ありませんが、今日は時間の関係もあって、ここは簡単に説明をさせていただきます。この時、イエス様たちは、ぶどう酒を飲まれたと思われまふ。そのぶどう酒を前にして、イエス様は、こうおっしゃいます、『**神の国で新しく飲むその日までは、わたしはもはや、ぶどうの実で造った物を飲むことはありません。**』って…。つまり、弟子たちは、いつの日か、イエス様と再会できると言うのです！しかも、それだけじゃない。いつか、イエス様は、本物のぶどう酒を飲めるような…、お体を持たれて…、そうして、神の国…、恐らくは、あの千年王国で、共に過ごすことができるようになるのです！

弟子たちは、とつきの昔に亡くなってしまいました…。しかし、彼らは皆、間違いなく、復活します。なぜなら、聖書のみことばが、はっきりとそう約束してくれているからです！…あのイエス様の復活は、その初穂であったのです！そうでしょ！

今、世間一般の多くの人たちは、新型コロナウイルスのウイルスを恐れています。…と言うのは、そのウイルスが、まだまだ、元気な若者や基礎疾患の無い働き盛りの人たちさえ、死に至らしめてしまうからです。また、新型コロナウイルスで亡くならなくても、私たち人間は皆、老いていって…、やがては死んでいきます。死に対しては誰も勝利できないのです。

しかし！イエス様は違いました！イエス様は、約束通り、十字架の死後3日目によみがえっていただきました。…それと同じような復活に、私も…、また、イエス様を信じて救われたあなたも預かることができるのです！

●弟子たちに与えられた希望！

さて、そういったことを理解した弟子たちは、その後、どのような行動を取ったでしょう？…どうか、今日のみことばの最後、26 節をご覧ください。そこには、『**そして、賛美の歌を歌ってから、みなでオリブ山へ出かけて行った。**』とあります。…このように、私たちクリスチャンには、素晴らしい“希望”があるのです！…確かに、この後、実際に、イエス様が捕らえられたり、十字架に磔にされたりして、弟子たちは皆、恐れ…、一時的に逃げまどいます。

しかし、やがて、弟子たちは、もう1度、その教えを思い出して、再び勇気を与えられて、宣教に出て行って、イエス様の十字架と復活のメッセージを宣べ伝えていくわけですよ。…その弟子たちと同じ希望や約束が、私たちクリスチャンには与えられているのです！

<励ましの言葉>

クリスチャンの皆さん。…天の神様は、救われる価値の無い私や皆さんに、素晴らしい希望を与えてくださいました。もう、私たちは、人生に失望することも…、必死になって生きる目的を探すことも、むやみに死を恐れる必要も無くなったのです。私たちが恐れるべきことは、神様を悲しませることだけです。どうか、今、新型コロナで、大勢の方たちが怯えてる時期だからこそ、すべてを御支配なさっておられる真唯一の神様に目を向けて…、その神様にだけすがって、明日からの毎日を希望をもって生きてほしいと思います。…そんな皆さんにこそ、世の人たちは、本当の希望を見出したださるのではないのでしょうか？…どうか、神様の良き証し人となっていただきたいと思います。

そうして、まだ、イエス様を信じておられない皆さん。…天の神様は、すべてを御存知です。その神様は、いつの日か、すべてのことを裁かれます。そうなると、あなたただでは済みません。どうか、その前に、真唯一の神であり、その神様が私たちに与えてくださった救い主なるイエス様のことを信じ、救われていただきたいと思います。それ以外に、私たちが様々な悩みや不安から解消されて、新しい人生を生きることができないからです。…どうか、この聖書のみことばに耳を傾けて、このみことばの真理の前にへりくだる者となっていただきたいと思います。…最後に、お祈りをもって、今日のメッセージを終わらせていただきます。